

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	9 月	22 日	記入者	宮本正博
調査者名	小倉	春日	仲谷	宮本	安川

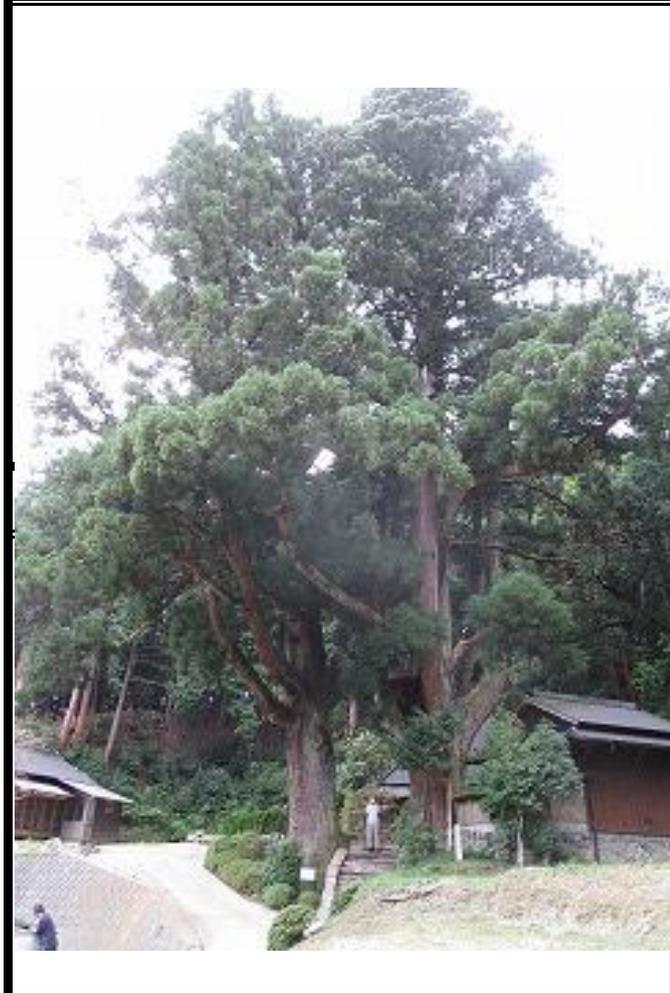
文化財名	下之坊の大スギ				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	2020年(令和2)3月6日				
所在地	天理市福住町265番地				
所有者 管理者	下ノ坊				
員数	2株				
時代区分					
樹木の場合	(樹木名) 杉			(樹齢) 700年～800年	
案内板の状況	詳しく内容を明記				
公開	境内の見学は自由				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足(地元の檀家有志が維持管理、掃除等を定期的実施している。)				
当面の課題	南北の巨木杉(別名・婆羅門杉)は根の巨大化に伴って地面が持ち上がり、石の階段がずり上がっている。できれば根を傷めないように補修すべきである。				
今後の課題	ともに樹勢が盛んで、北側の杉は周幹7.4m、樹高37.2m、地上4.5m～6mの所で6本に分岐していて、中央2本の分岐幹の断面は上下方向に長い楕円形になっている。南側の杉は北側と比べるとやや小さく、周幹5.3m、樹高36.2mあり、幹は直立。県下有数の杉の巨樹で、北側の杉の形状は特異な生態を示し学術的価値が高い。樹木医の定期的な生態観察や診断が必要であり、維持管理のため県の継続的な取り組みを望む。				
その他 (由緒など)	下之坊は長谷寺の末寺で上ノ坊、中之坊、下之坊など6坊あったが、現在その1つの坊が残っているだけである。地域信仰の中心で檀家5名で守り継がれている。しかし、今支えている世代を引き継ぐ世代が育っているかが課題である。				
コメント	このお堂には非公開であるが木造十一面観音立像が安置されていて、1957年(昭和32)3月22日奈良県有形文化財(彫刻)に指定された。大杉については周囲の根を踏み荒らさないように現状のように整備され続ければよい。今後、巨木ツアーや奈周辺の自然を社寺などで宣伝して、この坊の仏像や大杉の観光資源が今後の維持・運営にも役立てばよいと思う。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	9月	22日	記入者	宮本正博	
調査者名	小倉	春日	仲谷	宮本	安川	

文化財名	下之坊の大スギ
------	---------

大スギ全景(株の間の人を参照)	奥の境内側より(北側杉の分岐部)
-----------------	------------------



二つの株の根元



案内板(曲がり角に設置)

説明板

